

科目名	国際法	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	熊谷 卓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-210009	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	地球という「惑星」にはおよそ 200の主権国家が存在し、そこには 50億人をこえる人々が日々の生活を送っている。国際法 (International Law) というのは主としてこれらの国家関係を規律する法規範の総体をいう。今日の国際事象をみていると、国際社会において守られるべきルールとは何かあらためて問われているようにも思われる。本講義では、現代の諸問題について国際法がなしうること、それについて検討する。言うまでもなく、受けて良かった! と思える講義にしたい。(なお、本講義は、国際学部のディプロマポリシーたる、グローバルな課題に対する批判的な考察眼の滋養、問題の本質を看取できるような国際教養と研究手法の体得を、国際法学の学びから、目標とするものである。)				
学修到達目標	国際法学のアウトラインの習得が可能となる。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	国際法はどのように発展してきたのか?—伝統的国際法の性格
第3回	現代国際法はどのような特徴を持っているか?—1

第4回	現代国際法はどのような特徴を持っているか?-2
第5回	国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?-条約と国際慣習法-1
第6回	国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?-条約と国際慣習法-2
第7回	人権の国際的な保護の発展-1
第8回	人権の国際的な保護の発展-2
第9回	国際法で個人を裁く-1
第10回	国際法で個人を裁く-2
第11回	国際社会の司法権?-国際紛争の平和的解決と国際裁判-1
第12回	国際社会の司法権?-国際紛争の平和的解決と国際裁判-2
第13回	世界の中で日本はどうする?-国際法と日本の立場-1

第14回	世界の中で日本はどうする?-国際法と日本の立場-2
第15回	まとめ
第16回	試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に予習（2時間）のこと
【復習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に復習（2時間）のこと

成績評価	
評価基準・方法	主として試験による成績評価（試験90パーセント、講義内でのコメントペーパーを通じたレスポンス10パーセント）
フィードバック方法	コメントペーパーによる質疑応答（試験の講評を含め）を通じたフィードバック

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	開講時に指示
受講上の留意点等	本科目は、ある程度専門性の高い科目です。そのため、「国際関係論」をはじめとする国際学部の専門科目を複数、履修済みの者を受講対象と考えています。その意味で言えば、初学者に対しては受講を勧めません。
JABEE	